1．学校マネジメントの深化
【観点Ⅱ】「カリキュラム・マネジメントの充実に向けた検証・改善結果の教育課程への反映」

取組実践校：中津市立南部小学校（児童数133名　8学級）
「児童の成長に応じた着実な検証・改善を行う学年部による『ワイガヤ』の取組」

事例③

①セルフチェックを毎週行い、学校行事等の相関関係から次年度の教育課程の改善に活用している。
②「取組状況の確認」、「検証」及び「改善方策」を学年部による『ワイガヤ』で行うことで人材育成に生かしている。

具体的な取組①

セルフチェックの実施と継続性や行事等との関連を教務主任が把握

中津市立南部小学校　校長 山口 哲郎　　令和2年度 学校評価の4点セットと進捗状況

■学校の教育目標：よりよい生活を目指して、自分たちで課題をとらえ、協働して学び続ける児童の育成　【校訓】自学 自発 自尊

育成を目指す資質・能力：他者と協力する態度 問題発見・解決能力

計画（8月19日）　　確認・検証・改善（9

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	担当	実施率	取組状況の確認	達成状況の確認	検証	改善方策
取り組むことのできる力の育成（協働して、課題解決学習に）	○中津市学力調査で各学年の正答率を、目標値より基礎7ポイント、活用5ポイント上回る（単元テストで80点以上を超える児童の割合を80％以上にする） ○「授業中友だちとの話し合い活動を通して考えが深まった」と答える児童を80％以上にする。	学校	新大分スタンダードを基盤とした質の高いテンポのよい授業	児童が学習活動の流れを理解し、一日1回以上学習リーダーが授業の司会進行をすることができる。	研究主任	第4点セット 8月26日 9月2日 9月9日 9月16日 9月30日 セルフチェックのポイント 3.6 3.6 3.6 3.3 3.6	(低)2年生は算数で学習リーダーが活動している。1年生はこれから行っている。 (中)課題を自分たちでたてられるようになった。 (高)他教科へ広げていく。	【9月】単元テストで80点以上を超える児童の割合（%） 1年 2年 3年 4年 5年 6年 算 ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ 国 ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ 理 ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○	(低)算数の宿題のまるつけを協力してくれる家庭が増えてきた。 学習リーダーは、算数の時間を中心にできている。	(低)学習リーダーは、算数の時間を中心にパターン化できる部分を続けていく。1年生は、運動会後に学習リーダーを始める。
			話し合いが深まる工夫をした問題解決的な授業	週2回以上は、話し合いをするための思考類型をはっきりさせた授業をし、学年会で交流を図る。	研究主任	セルフチェックのポイント 2.9 2.9 2.7 2.8 2.6	(低)思考類型はまだあまり使えていない。 (中)思考類型はあまり使えていない。 (高)どのような思考類型を用いるのか、児童が考えることも		(中)課題を子どもたちで作ることができるようになってきた。	(中)子どもたちによる課題づくりの定着を図る。 思考類型と言葉わざをできるだけ関連づける。
		家庭	家庭でいいところを見つけてほめる活動の実施	1日1回は、子どものよいところをほめる（親学のすすめアンケート）	教務主任			【1学期の児童アンケート】	(高)教師の意識づけとしての思考類型の提示はできている。児童も意識している。「今日はきまりを見つけるんよね」など	(高)学習リーダー進行の教科を広げる。 用いる思考類型について、児童と考え、児童にも意識づける。
			充実	年に1回は、すくすくプロジェクトのサポーター授業に参加する。						

【未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成】

具体的な取組②

学年部で「確認・検証・改善」を協議

「学習リーダー」の導入時期を検討する低学年部

主体的な「課題設定」の仕方を協議する中学年部

板書写真から「考えるための技法」の活用方法を模索する高学年部

児童の発達段階や実態に応じて、「4点セット」の検証・改善を協議